令和３年 11 月 14 日（日）

四季の森公園自然観察会「色づく樹木と草の葉」

NPO 法人四季の森里山研究会　担当：上野、小野、下田

今、カエデの仲間はまだあまり赤く色づいていませんが、コナラ、ケヤキ、ニシキギなど様々な樹木が黄色や赤い色に変化しています。またヤマノイモ、オニドコロやシダの黄葉、ガマズミ、サンシュユなどの赤い果実、ツワブキの黄色い花なども楽しめます。今日は園内の樹木や草本の色の変化に注目して、季節を感じながら歩きましょう。

・紅葉のしくみ

気温が下がり始めると、葉は光合成の働きが衰え、葉緑素（クロロフィル）が分解され始め、葉柄と幹や茎との間に「離層」ができます。そして、（クロロフィル＋カロチノイドにより）緑色だった葉はクロロフィルが分解すると黄色になり、その過程でタンニンなどの褐色物質が目立ち始めると褐色になります。葉に糖が蓄積してアントシアンが生成されると葉は赤くなります。

・モミジ、草紅葉（くさもみじ）

「モミジ」は「もみづ」という言葉に由来しており、秋に葉が赤や黄色に変色することやその変色した葉のことをいいます。カエデの仲間に限りません。秋には落葉樹だけでなく草の葉も紅葉します。公園では様々な植物の「草紅葉（くさもみじ）」も見られます。

・紅葉しない落葉樹

地面に落ちている葉のほとんどは緑色を失い、赤、黄、茶色に変色しています。それに対してヤシャブシの葉は緑色のまま落葉します。落葉するぎりぎりまで長期間光合成を行い、紅葉する落葉樹よりも余分にエネルギーを生み出すことができると言われています。

・枯れた樹木が多数

ミズキは、ここ数年にわたり大発生したキアシドクガの幼虫により若い葉のほとんどが食べられました。これにより多くの木が衰弱してしまいました。コナラやシラカシの場合は、カシノナガキクイムシが材内に穿孔し、媒介した共生菌（ナラ菌）によって枯死する「ナラ枯れ」です。穿入孔から大量の木屑（フラス）が出ているのが分かります。

・紅葉を詠う詩歌

＜和歌＞九月(ながつき)のしぐれの雨に濡れ通り春日の山は色づきにけり
（作者未詳、万葉集 2180）
＜俳句＞このもよりかのも色こき紅葉哉　（与謝蕪村）
＜漢詩＞林間に酒を煖(あたた)めて紅葉を焼(た)く　（白居易）

・文部省唱歌：紅葉（もみじ）

秋の夕日に照る山もみじ　濃いも薄いも数ある中に
松をいろどる楓（かえで）や蔦（つた）は　山のふもとの裾模様

★　次回は１２月１３日（日）。テーマは『紅葉を楽しむ』です。是非、ご参加ください。